

# 令和6年度 市内遺跡発掘調査報告書

2025

甲賀市教育委員会



# 令和6年度 市内遺跡発掘調査報告書

2025

甲賀市教育委員会





# 序

甲賀市は滋賀県の南東部に位置し、東は三重県、南は京都府と接しています。市内には古くから東海道などの主要街道が通り、現代でも新名神高速道路や国道1号が通るなど、交通の要衝であります。

市内には「紫香楽宮跡」・「垂水頓宮跡」・「甲賀郡中惣遺跡群」・「水口岡山城跡」といった国指定史跡があるほか、多くの埋蔵文化財包蔵地が確認されています。

埋蔵文化財は地中に埋もれていることから、普段目にする機会が少なく、発掘調査によって初めて明らかになります。この地中に残された文化財は、先人たちが築いてきた歴史であり、今の甲賀市へと繋がる郷土の大切な財産です。この貴重な財産、「地域の宝」を守り伝えていくことが私たちの責務であると考えます。

本報告書に記載している試掘調査は、開発行為に先立つ調査であり、埋蔵文化財の保護と土地利用の両立を図ることを目的としています。令和5年度は7件の試掘調査を実施し、新たな発見をすることができました。

最後になりましたが、本報告書を刊行するにあたり、ご協力いただきました関係者の皆さまに厚くお礼申し上げます。

令和7年（2025年）3月

甲賀市教育委員会

教育長 立岡 秀寿



## 例 言

1. 本書は甲賀市教育委員会が令和5年度に実施した試掘調査の概要をまとめたものである。なお、本書に掲載した調査は、令和5年度に現地調査を実施し、令和6年度に整理調査を実施した。
2. 本書で報告している試掘調査にかかる経費は、国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金（国庫補助金）および滋賀県文化財保存事業費補助金（県費補助金）を得た。
3. 令和5年度および令和6年度の甲賀市教育委員会における調査体制は以下の通りである。

### 【令和5年度】

調査主体 甲賀市教育委員会 教育長 立岡 秀寿  
調査事務局 甲賀市教育委員会事務局 歴史文化財課  
課長 前田 正  
参事 鈴木 良章  
埋蔵文化財係長 小谷 徳彦  
主査 渡部 圭一郎  
主査 伊藤 航貴（調査担当者）

### 【令和6年度】

調査主体 甲賀市教育委員会 教育長 立岡 秀寿  
調査事務局 甲賀市教育委員会事務局 歴史文化財課  
課長 前田 正  
参事 鈴木 良章  
埋蔵文化財係長 北前 洋平  
主任技師 小谷 徳彦  
主査 渡部 圭一郎  
主査 伊藤 航貴（調査担当者）

4. 本文の執筆・編集は伊藤が行った。また、本書に掲載した図面の作成は伊藤が担当した。
5. 本書で示す北は座標北である。
6. 本書で報告した試掘調査の図面・写真類については、甲賀市教育委員会が保管している。



## 目次

全体概要	1
23-01 次 北脇遺跡	3
23-02, 04, 07 次 水口城遺跡	7
23-03 次 西浦遺跡	12
23-05 次 北泉遺跡	20

## 表目次

表 1 : 試掘・分布調査一覧	1
表 2 : 23-03 次 調査区検出内容一覧	15

## 図目次

図 1 : 試掘・分布調査位置図	2
図 2 : 23-01 次 調査対象範囲位置図	3
図 3 : 23-01 次 トレンチ位置図	4
図 4 : 23-01 次 土層断面図	5
図 5 : 23-01 次 遺物実測図	5
図 6 : 23-02, 04, 07 次 調査対象範囲位置図	7
図 7 : 23-02 次 トレンチ位置図・土層断面図	8
図 8 : 23-04 次 トレンチ位置図・土層断面図	9
図 9 : 23-07 次 トレンチ位置図・土層断面図	11
図 10 : 23-03 次 調査区地区割図	12
図 11 : 23-03 次 A区北トレンチ位置図	13
図 12 : 23-03 次 土層断面図	14
図 13 : 23-03 次 遺物実測図	16
図 14 : 23-05 次 調査対象範囲位置図	20
図 15 : 23-05 次 トレンチ位置図・土層断面図	21

## 写真目次

写真 1 : 23-01 次 1 トレ全景	6
写真 2 : 23-01 次 1 トレ土層	6
写真 3 : 23-01 次 3 トレ全景	6
写真 4 : 23-01 次 3 トレ掘り下げ	6
写真 5 : 23-01 次 5 トレ全景	6
写真 6 : 23-01 次 5 トレ掘り下げ	6
写真 7 : 23-01 次 7 トレ全景	6
写真 8 : 23-01 次 7 トレ土層	6
写真 9 : 23-02 次 トレンチ全景	8
写真 10 : 23-02 次 トレンチ土層	8
写真 11 : 23-04 次 1 トレ全景	9
写真 12 : 23-04 次 1 トレ土層	9
写真 13 : 23-04 次 2 トレ掘り下げ	9
写真 14 : 23-04 次 2 トレ土層	9
写真 15 : 23-07 次 1 トレ全景	11
写真 16 : 23-07 次 1 トレ土層	11
写真 17 : 23-03 次 5 トレ全景	18
写真 18 : 23-03 次 5 トレ土層	18
写真 19 : 23-03 次 6 トレ全景	18
写真 20 : 23-03 次 6 トレ断ち割り土層	18
写真 21 : 23-03 次 6 トレ土層 (東壁)	18
写真 22 : 23-03 次 14 トレ全景	18
写真 23 : 23-03 次 14 トレ土層 (東壁)	18
写真 24 : 23-03 次 14 トレ瓦器出土状況	18
写真 25 : 23-03 次 14 トレピット断ち割り	19
写真 26 : 23-03 次 14 トレ溝断ち割り	19
写真 27 : 23-03 次 16 トレ全景	19
写真 28 : 23-03 次 16 トレ土層	19
写真 29 : 23-03 次 28 トレ全景	19
写真 30 : 23-03 次 28 トレ土層	19
写真 31 : 23-03 次 29 トレ全景	19
写真 32 : 23-03 次 29 トレ土層	19
写真 33 : 23-05 次 トレンチ全景	21
写真 34 : 23-05 次 トレンチ土層	21

全体概要

甲賀市では令和５年度に開発事業などにかかる埋蔵文化財の試掘調査を７件実施した。

試掘調査は、周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲内で実施した調査が６件、同範囲外で実施した調査が１件であった。範囲外の調査は「甲賀市みんなのまちを守り育てる条例」の規定に基づき、開発事業の実施に先立ち、遺跡の有無を確認するために試掘調査を実施したものである。なお、開発に伴う試掘調査及び分布調査の件数は、令和４年度の１３件から６件減少した。

表１に令和５年度に実施した試掘調査を一覧表にして示した。遺物の出土を確認した調査が２件、遺構を確認した調査は１件であった。

23-03 次は西浦遺跡の隣接地で実施し、保護対象となる埋蔵文化財を確認したことから、西浦遺跡の範囲を拡大した。

本報告書では、遺跡内で実施した試掘調査についてその概要を記述する。

表１：試掘・分布調査一覧

NO	内容	調査 回数	調査 開始日	調査 終了日	調査地		目的	目的 詳細	遺跡 有無	遺跡 名称	結果							
					町名	大字					調査 面積(m <sup>2</sup> )	遺物	詳細	遺構	詳細	遺構面深度	年代	性格
1	試掘	23-01次	R5.5.26	R5.5.26	水口町	北脇	k 店舗	店舗	あり	北脇遺跡	42	△	須恵器、土師器	×				
2	試掘	23-02次	R5.8.8	R5.8.8	水口町	中郎	i 個人住宅	個人専用一戸建住宅	あり	水口城遺跡	6	×		×				
3	試掘	23-03次	R5.8.9	R6.11.16	水口町	虫生野	o 土地区画整理	土地区画整理	あり	西浦遺跡	238	○	土師器、瓦器ほか	○	柱穴、溝	30cm～40cm	13世紀	集落跡
4	試掘	23-04次	R5.8.28	R5.8.29	水口町	本丸	i 個人住宅	個人専用一戸建住宅	あり	水口城遺跡	6	×		×				
5	試掘	23-05次	R5.10.18	R5.10.18	水口町	北泉	i 個人住宅	モデルハウス	あり	北泉遺跡	4	×		×				
6	試掘	23-06次	R5.11.30	R5.11.30	甲南町	寺庄	n 宅地造成	分譲	無		18	×		×				
7	試掘	23-07次	R6.3.18	R6.3.19	水口町	本丸	n 宅地造成	分譲	あり	水口城遺跡	12	×		×				





図 1：試掘・分布調査位置図



## 23-01 次 北脇遺跡

### 調査位置と調査経緯

北脇遺跡は、水口平野部の野洲川右岸の段丘上に立地する遺跡である。遺跡の範囲は東西約 800 m、南北約 250 m と東西に広がる。遺跡の西部で実施した第 4 次調査と遺跡の中央部で実施した第 5・7・12 次調査で、9 世紀から 12 世紀の遺構と遺物を確認した。なお、遺跡の東部で実施した 09-07 次、13-05 次調査では、遺物は出土するものの、明確な遺構は確認できていない。

第 4 次調査では、1 間×5 間の細長い掘立柱建物を 6 棟、50 m 超える柵を検出し、第 5 次調査では、縦横 3.5 cm の青銅製の印鑑（銅印）が出土した。

また北脇遺跡では、近江産緑釉陶器とその素地も多く出土している。北脇遺跡から北へ直線距離で約 4 km のあたりに緑釉陶器の生産遺跡があり、北脇遺跡は何らかの形で緑釉陶器の生産にかかわっていた可能性が高いと考えられる。このように北脇遺跡では、一般的な集落とは考えにくい規模や形態の遺構を確認し、遺物においても銅印や緑釉陶器などが出土しており、集落遺跡ではなく官衙的要素を持った遺跡であることがわかっている。

今回報告する 23-01 次は店舗建設に伴う試掘調査であり、遺跡の東部で実施した。

### 調査概要

調査区は 2×3 m を 7 箇所設定し、調査面積は 42 m<sup>2</sup> となった。

基本層序は、①耕作土、②黒灰色粘質土、③暗茶色粘質土、④明灰色粘質土で、地表から約 50cm 下で④層を確認した。

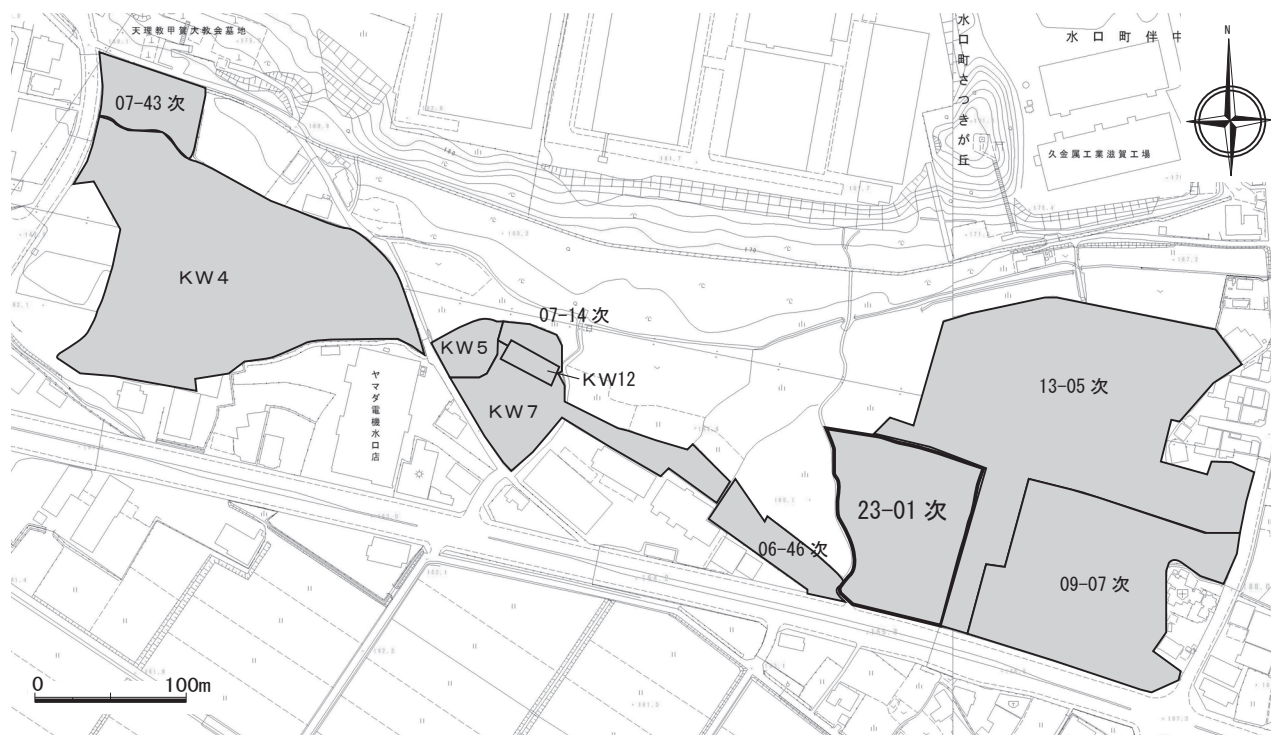


図 2：23-01 次 調査対象範囲位置図

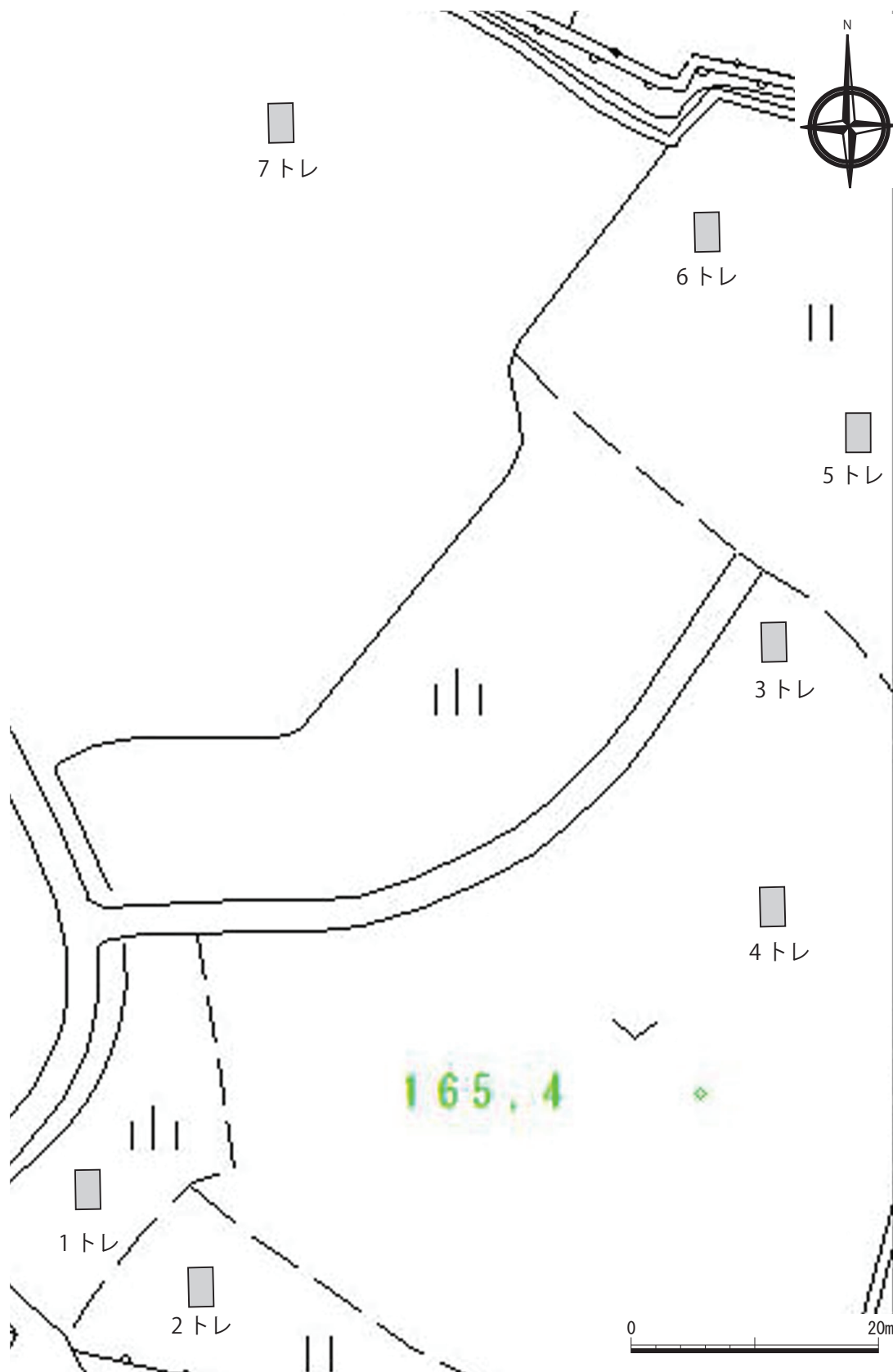


図3：23-01 次 トレンチ位置図

この④層で遺構検出を試みたが、遺構は確認できなかった。

遺物は、2トレンチで土師器（1）と瓦器（2）、6トレンチで須恵器が出土した。なお、須恵器は細片であり図化できなかった。

1は土師器の羽釜である。口縁から体部にかけて残存し、外面に一部ススが付着する。2は信楽焼の播鉢、もしくは捏鉢とみられ、口縁のみ残存し、すり目は確認できない。

## まとめ

今回の調査では、遺構は確認できなかった。遺物は遺構に伴うものではないが、古墳時代と中世のものが出土した。北脇遺跡ではこれまでの調査でも中世の遺物が出土している。また、遺跡北側には北脇城遺跡が隣接しており、中世の集落の存在が想定される。

## 《参考文献》

甲賀市史編纂委員会 2013『甲賀市史 第5巻 信楽焼・考古・美術工芸』

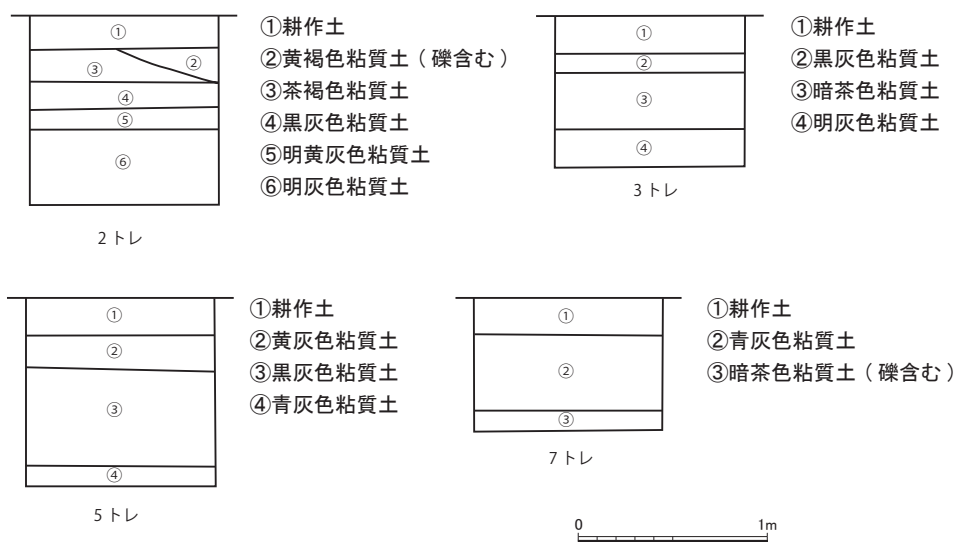


図4：23-01次 土層断面図

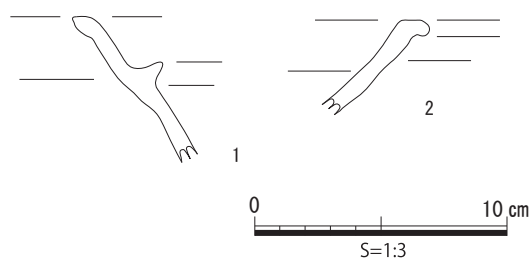


図5：23-01次 遺物実測図





写真 1 : 23-01 次 1 トレ全景



写真 2 : 23-01 次 1 トレ土層



写真 3 : 23-01 次 3 トレ全景



写真 4 : 23-01 次 3 トレ掘り下げ



写真 5 : 23-01 次 5 トレ全景



写真 6 : 23-01 次 5 トレ掘り下げ



写真 7 : 23-01 次 7 トレ全景



写真 8 : 23-01 次 7 トレ土層





## 調査概要

### 23-02 次

調査区は2×3mを1箇所設定し、面積は6㎡となった。基本層序は、①耕作土、②灰褐色粘質土で、現況地表面から約40cmで②層を確認した。遺構や遺物は確認できなかった。なお、今回の工事は地盤改良がないことから、基礎掘削高までの調査となった。

### 23-04 次

調査区は1×2mを3箇所設定し、面積は6㎡となった。基本層序は、①アスファルト舗装、②碎石、③明灰褐色粘質土、④黄褐色粘質土、⑤明茶色混じり黄褐色粘質土で、現況地表面から約70cm下で⑤層を確認した。すべての調査区で遺構と遺物は確認できなかった。



図7：23-02次 トレンチ位置図・土層断面図



写真9：23-02次 トレンチ全景



写真10：23-02次 トレンチ土層





図8：23-04次 トレンチ位置図・土層断面図



写真11：23-04次 1トレ全景



写真12：23-04次 1トレ土層



写真13：23-04次 2トレ掘り下げ



写真14：23-04次 2トレ土層

## 23-07 次

調査区は2×2 mを3箇所設定し、面積は12 m<sup>2</sup>となった。基本層序は、①暗灰色土（表土）、②暗茶褐色粘質土、③黄灰色粘質土、④黒褐色粘質土、⑤黄灰色礫層（地山）で、現況地表面から約150cm下で⑤層を確認した。

すべての調査区で遺構は確認できなかった。なお、遺物は近世の瓦と陶器が出土したが、遺構に伴うものではないため、二次堆積によるものだと考えられる。

## まとめ

今回の試掘調査では、保護対象となる埋蔵文化財は確認されなかった。23-04 次では、推定二の丸での調査であったため、遺構の検出が期待された。しかし、遺構面は確認できず、また遺物も出土しなかった。

これまで水口城遺跡では試掘調査を実施し、古代の遺構や遺物は確認できている。しかし、近世の水口城に関する遺構は後世の攪乱によって確認できていない。

## 《参考文献》

甲賀市史編纂委員会 2010『甲賀市史 第7巻 甲賀の城』

甲賀市教育委員会 2023『令和5年度市内遺跡発掘調査報告書』



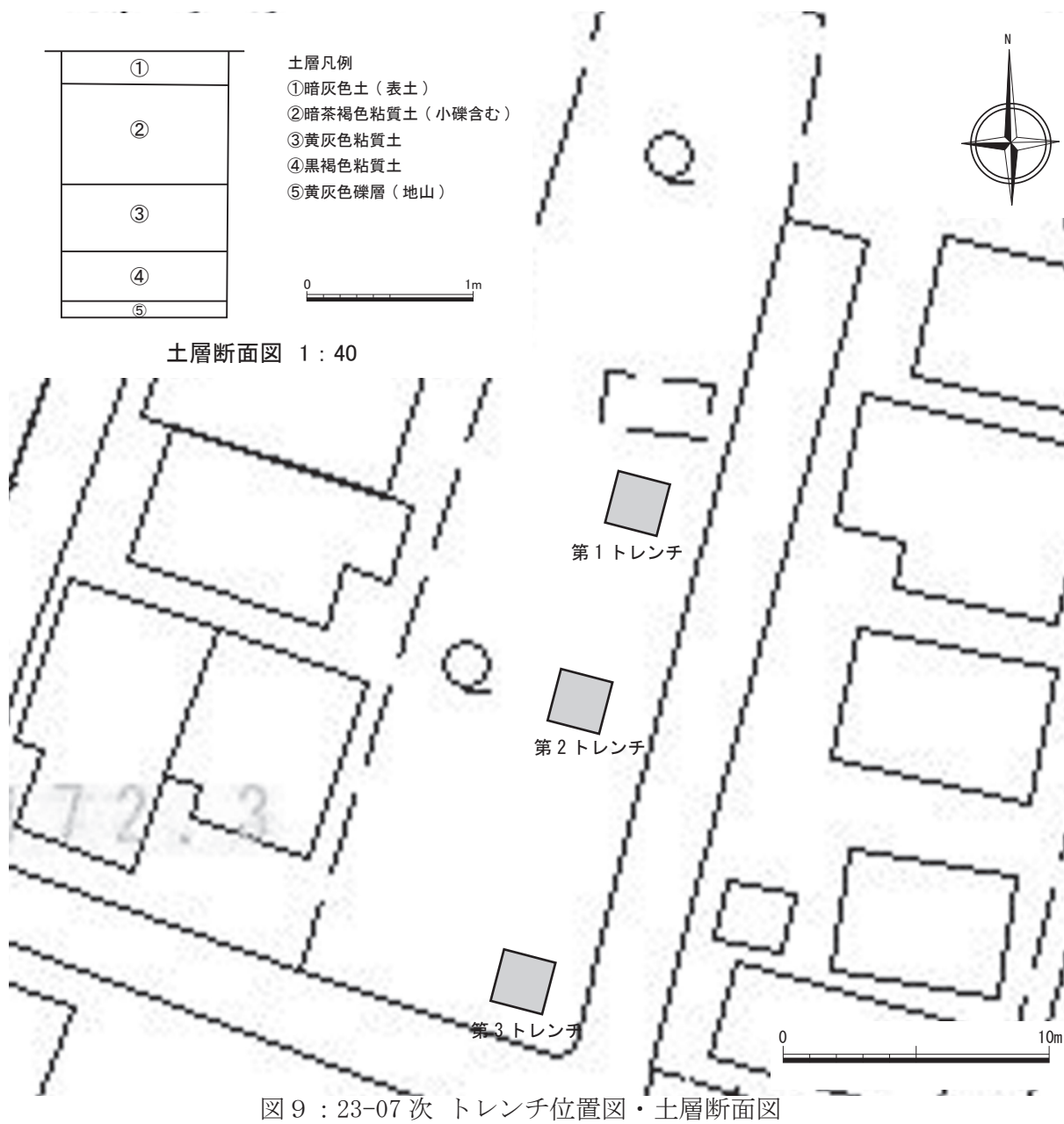


図9：23-07次 トレンチ位置図・土層断面図



写真15：23-07次 1トレ全景



写真16：23-07次 1トレ土層

## 23-03 次 西浦遺跡

### 調査位置と調査経緯

西浦遺跡は、水口町虫生野に位置し、杣川右岸の河岸段丘の先端部に立地する中世の集落遺跡である。平成 27 年度に駐車場造成に伴う試掘調査で、新たに発見された遺跡である。この調査では、中世の掘立柱建物やピットを検出している。なお、工事内容が盛土造成のみであったため、遺構は地下に現地保存されている。

今回報告する 23-03 次は土地区画整理事業に伴う試掘調査である。調査対象範囲が広範囲に及ぶことから、A 区、B 区、C 区、D 区に分けて調査を実施した（図 10）。なお、当該地は調査実施段階において、耕作している区域もあったため、全域を一度に調査することができなかった。そのため、A 区を令和 5 年 8 月 8 日～10 日、23 日、24 日に、B～D 区を令和 5 年 11 月 13 日～16 日に実施した。

この試掘調査では、A 区の北側において遺構と遺物が確認できた。また、調査前の西浦遺跡に隣接し、年代も西浦遺跡と同様中世であると考えられるため、西浦遺跡の範囲を拡大した<sup>1</sup>。

保護対象となる埋蔵文化財が確認できた範囲については、令和 7 年度に記録保存調査を実施予定である。



図 10：23-03 次 調査区地区割図

1 令和 5 年 12 月 12 日付け甲歴文第 758 号において、西浦遺跡の範囲変更の協議を行い、令和 6 年 1 月 11 日付け滋文保第 12 号で埋蔵文化財包蔵地【西浦遺跡】の範囲変更について通知があった。

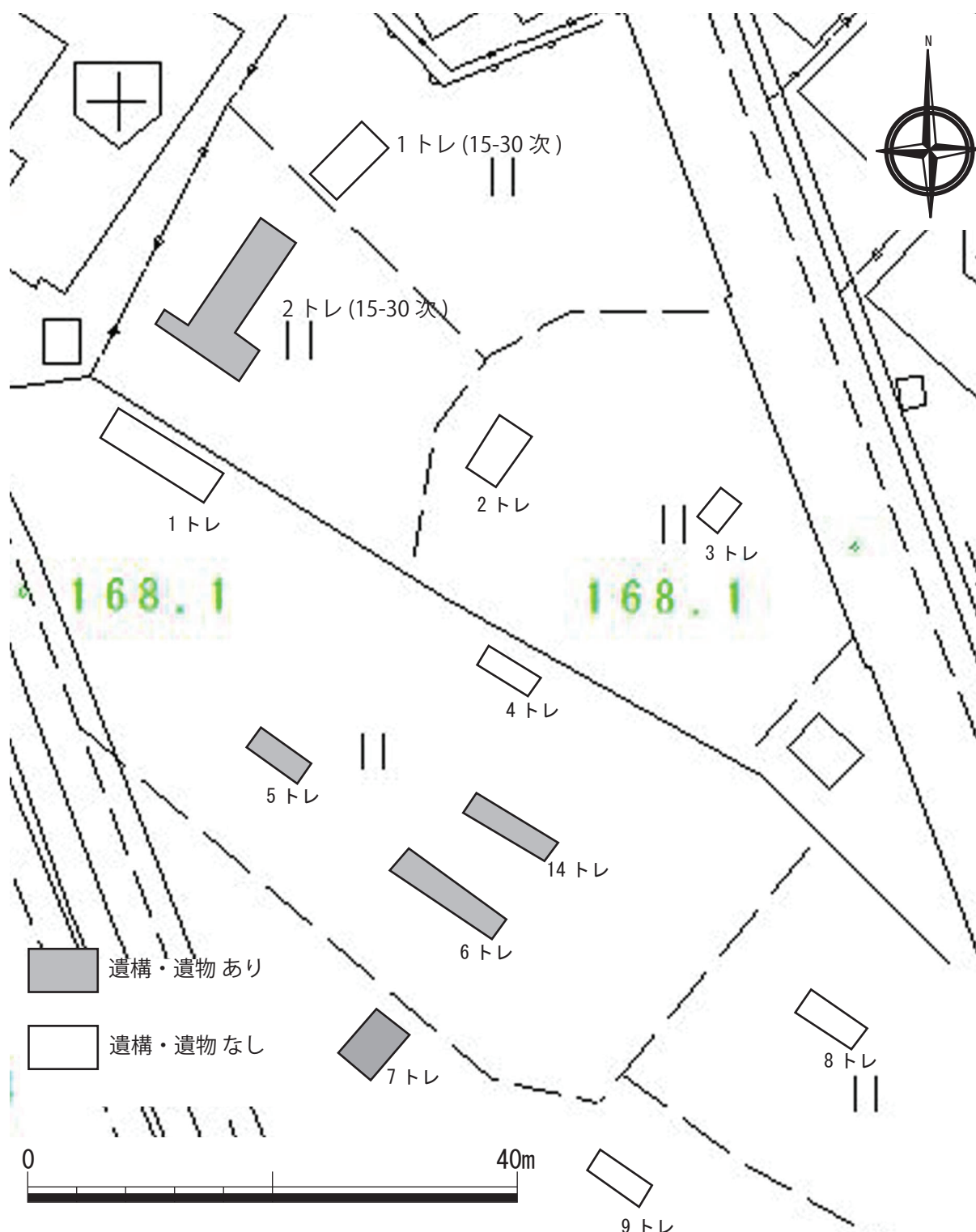


図 11 : 23-03 次 A区北トレンチ位置図



## 調査概要

各調査区の規模、調査結果および位置は表 2 と図 10 の通りである。A 区では遺構と遺物を確認したが、B～D 区では遺構遺物ともに確認できなかった。A 区から D 区の調査概要について述べる。

### A 区（第 1 ～ 14 トレンチ）

A 区は J R 草津線と市道貴生川・宝木幹線が平行に通る間の区域で、J R 草津線のさらに西側には杣川が流れる。A 区では調査区を 14 箇所設定した。

調査の結果、第 5・6・7・14 トレンチにおいて、黄褐色粘質土の遺構面を確認し、溝や柱穴などの遺構を検出した。基本層序は、①耕作土、②暗灰色粘質土（遺物包含層）、③黄褐色粘質土（遺構面）である。②層には瓦器や土師器など多くの遺物が含まれている。

③層の遺構面は安定した黄褐色粘質土であり、調査地中央から西南にかけて広がり、柱穴や溝

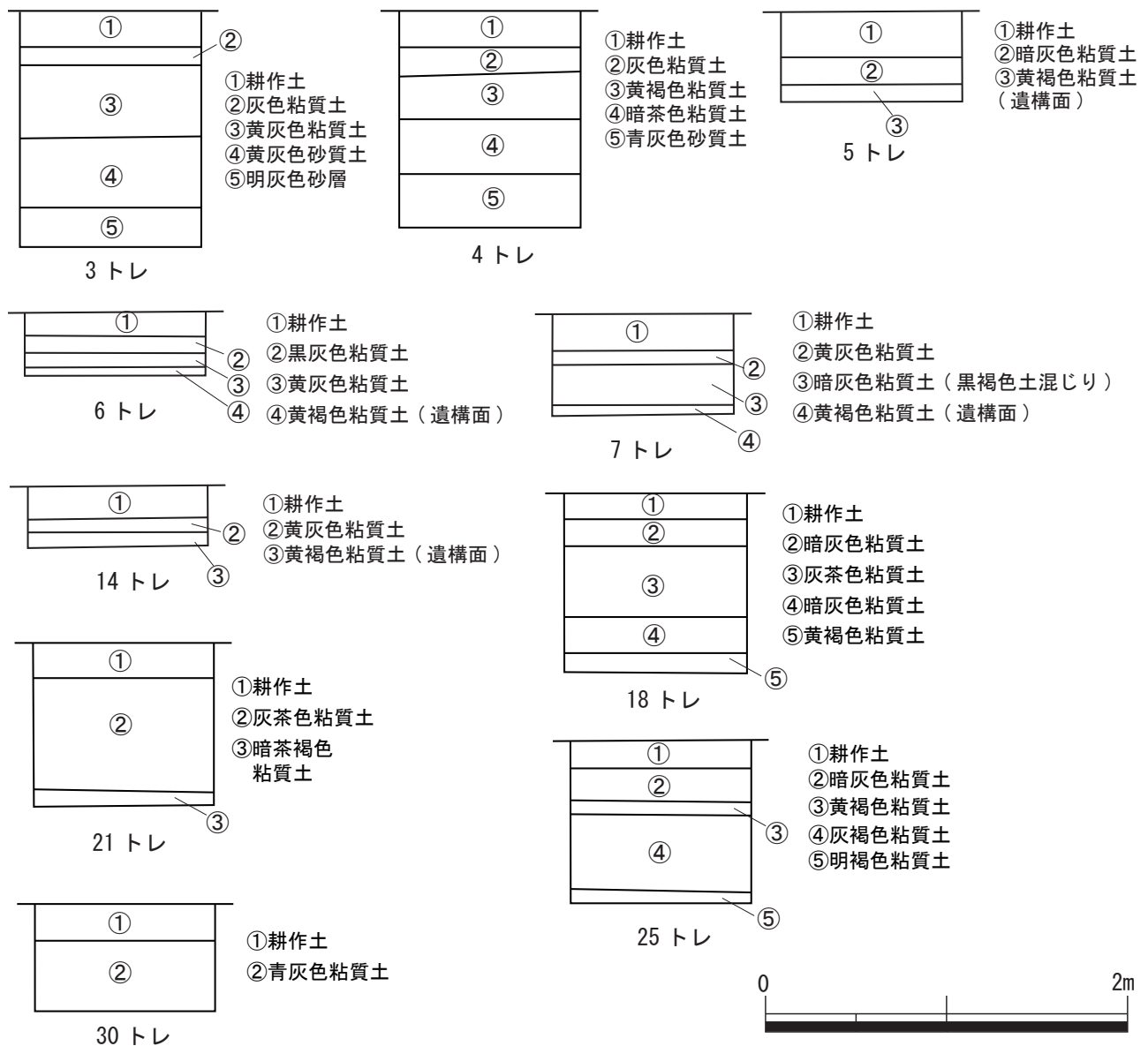


図 12：23-03 次 土層断面図

を検出した。

第5・14 トレンチでは、柱穴とみられるピットを検出した。トレンチの規模が小さいため、建物等に復元することはできなかったが、より大きな面積で調査した場合、建物跡を検出する可能性がある。

遺物はA区の第1・3・4・5・6・7・14 トレンチから、瓦器や土師器、信楽焼、小片ながら青磁が出土し、第14 トレンチで最も多くの遺物が出土した。なお、B～D区のトレンチでは遺物は出土していない。これらの土器は、おおむね12世紀から13世紀にかけて時代に比定できる。

表2：23-03 次 調査区検出内容一覧

トレンチ名	面積(m <sup>2</sup> )	遺構面深さ(m)	遺構	遺物	内容
1トレンチ	30	—	—	△	
2トレンチ	15	—	—	△	
3トレンチ	6	—	—	—	
4トレンチ	10	—	—	△	
5トレンチ	10	0.40	◎	○	柱穴、溝
6トレンチ	20	0.30	◎	◎	柱穴、溝、瓦器、土師器、青磁
7トレンチ	15	0.50	△	△	瓦器、土師器
8トレンチ	10	—	—	—	
9トレンチ	10	—	—	—	
10トレンチ	6	—	—	—	
11トレンチ	10	—	—	—	
12トレンチ	10	—	—	—	
13トレンチ	10	—	—	—	
14トレンチ	16	0.25	◎	◎	柱穴、溝、瓦器、土師器
15トレンチ	9	—	—	—	
16トレンチ	9	—	—	—	
17トレンチ	9	—	—	—	
18トレンチ	6	—	—	—	
19トレンチ	6	—	—	—	
20トレンチ	6	—	—	—	
21トレンチ	6	—	—	—	
22トレンチ	6	—	—	—	
23トレンチ	6	—	—	—	
24トレンチ	6	—	—	—	
25トレンチ	6	—	—	—	
26トレンチ	6	—	—	—	
27トレンチ	6	—	—	—	
28トレンチ	6	—	—	—	
29トレンチ	6	—	—	—	
30トレンチ	6	—	—	—	
合計	283				

遺構面の深さは、現状の地表面からの深さ

遺物・遺構の表示については、一なし △少しある ○ある ◎かなりある

第1トレンチからは、水田の床土層で信楽焼播鉢が出土したが、小片のため図化できなかった。

第3トレンチからは、②層で瓦器と羽釜の脚部(3)が出土した。3は外面に煤が付着している。

第4トレンチからは、③層で瓦器(4)が出土した。4は口縁から体部にかけて残存し、口縁端部には沈線が入る。全体的に磨耗しており、ミガキの有無は不明である。

第5トレンチからは、②層で瓦器と土師器皿が出土したが、小片のため図化できなかった。

第6トレンチからは、③層で瓦器(5・6)と土師器皿、信楽焼(7)、青磁が出土した。5・6は体部から高台にかけて残存する。5は内面にミガキが確認できるが、6は磨耗のため内外面ともにミガキは不明である。7は信楽焼の播鉢もしくは捏鉢である。

第7トレンチからは、③層で瓦器(8)と土師器皿が出土した。8は口縁から体部にかけて残

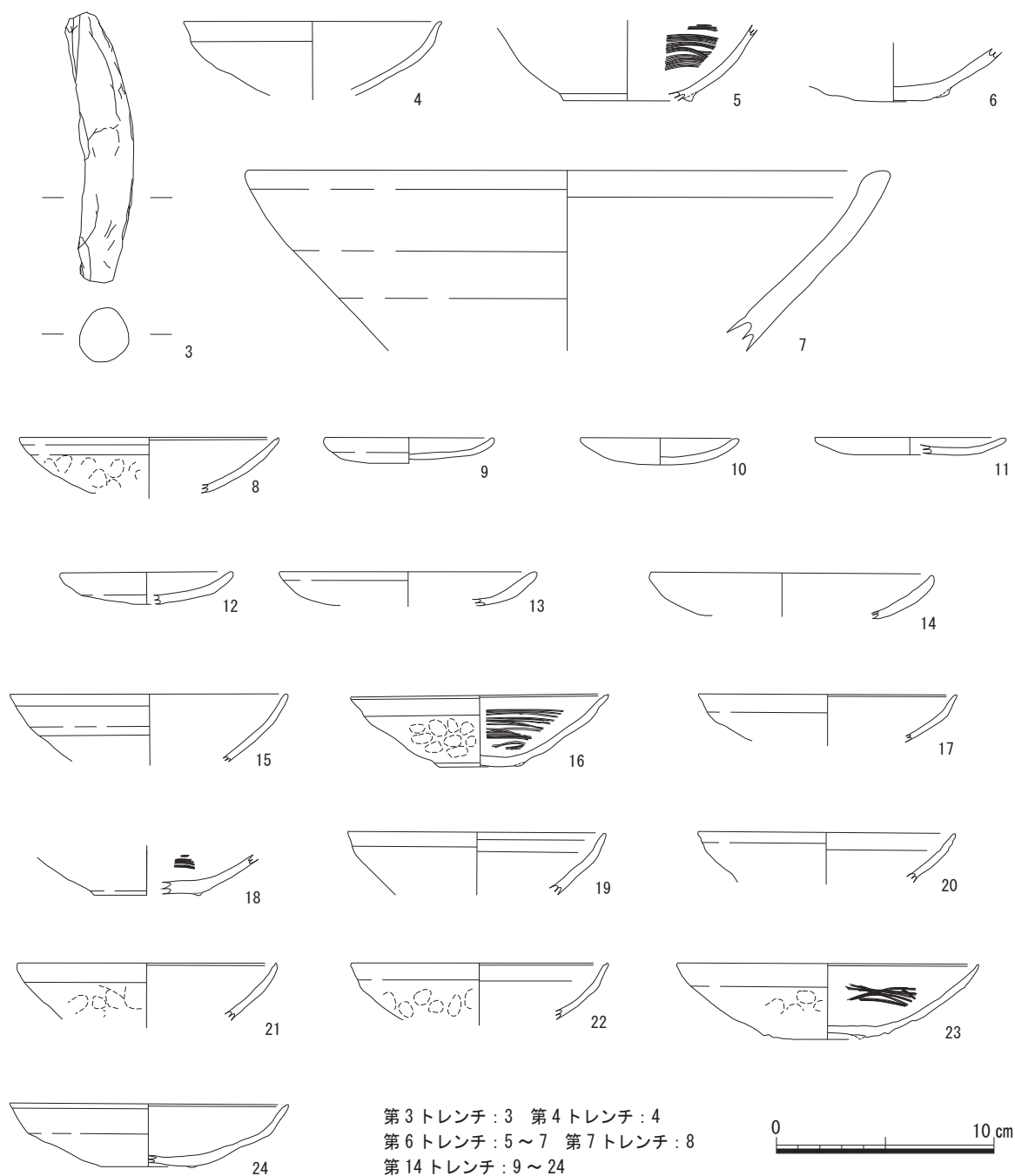


図 13 : 23-03 次 遺物実測図

存し、口縁端部に沈線が入る。外面に指頭圧痕が明瞭に残るが、ミガキは不明である。

第 14 トレンチからは、③層で土師器皿（9～14）と瓦器（15～24）が出土した。9～14 の土師器皿は直径が約 8 cm と約 14cm のグループに分類できる。15～24 の瓦器は、ミガキは内面のみ施し、外面には指頭圧痕が確認できる。高台が確認できるものは粘土貼り付けであるが、いずれも高台としての機能を果たしていない。

#### **B 区（第 15 ～ 21 トレンチ）**

B 区は市道貴生川・宝木幹線の東側の区域である。調査区は 7 箇所設定した。当該地では、耕作土より下層を掘削すると湧水が発生するため、水中ポンプで排水作業を行いながら遺構の検出を試みた。

基本層序は①耕作土、②暗灰色粘質土、③灰茶色粘質土、④暗灰色粘質土、⑤黄褐色粘質土である。B 区の全ての調査区で遺構と遺物は確認できなかった。

#### **C 区（第 22 ～ 25 トレンチ）**

C 区は B 区の北東側の区域であり、調査区は 4 箇所設定した。基本層序は①耕作土、②暗灰色粘質土、③黄褐色粘質土、④灰褐色粘質土、⑤明褐色粘質土である。C 区の全ての調査区で遺構と遺物は確認できなかった。

#### **D 区（第 26 ～ 31 トレンチ）**

D 区は C 区の南側の区域であり、調査区は 6 箇所設定した。基本層序は①耕作土、②青灰色粘質土である。D 区の全ての調査区で遺構と遺物は確認できなかった。

#### **まとめ**

今回の調査では、A 区で遺構と遺物を確認し、西浦遺跡が南東へ広がっていることが明らかとなった。遺構はピットを検出したが、トレンチの範囲が限られていたため、建物の復元はできていない。また、溝の埋土から瓦器や土師器が出土しており、遺跡の年代は 13 世紀代と考えてよいだろう。なお、B 区から D 区では、遺構遺物ともに確認できず、A 区で確認できた安定した遺構面も確認できなかった。

当該地は杣川が形成した河岸段丘上に位置し、遺物は瓦器や土師器が多く出土し、青磁も細片が 1 点出土している。また、遺構は柱穴と考えられるピットを検出しており、今後実施予定の本発掘調査では、建物が復元できる可能性がある。

これまで水口町虫生野地先では本発掘調査を実施した例がなく、今後の西浦遺跡の調査によって、中世の虫生野地域の様相が明らかになるだろう。

#### **《参考文献》**

甲賀市教育委員会 2016『平成 28 年度市内遺跡発掘調査報告書』





写真 17 : 23-03 次 5 トレ全景

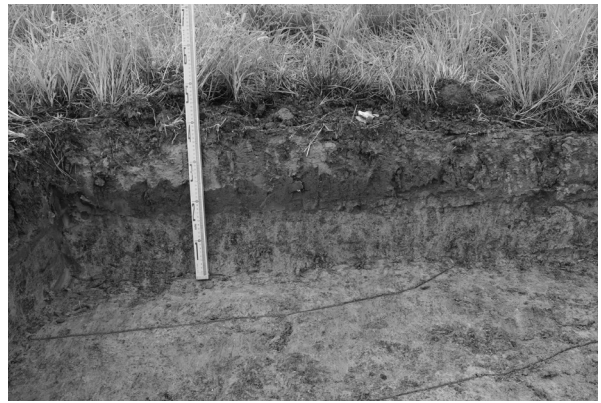


写真 18 : 23-03 次 5 トレ土層



写真 19 : 23-03 次 6 トレ全景



写真 20 : 23-03 次 6 トレ断ち割り土層



写真 21 : 23-03 次 6 トレ土層（東壁）



写真 22 : 23-03 次 14 トレ全景



写真 23 : 23-03 次 14 トレ土層（東壁）



写真 24 : 23-03 次 14 トレ瓦器出土状況





写真 25 : 23-03 次 14 トレピット断ち割り



写真 26 : 23-03 次 14 トレ溝断ち割り



写真 27 : 23-03 次 16 トレ全景



写真 28 : 23-03 次 16 トレ土層



写真 29 : 23-03 次 28 トレ全景



写真 30 : 23-03 次 28 トレ土層



写真 31 : 23-03 次 29 トレ全景



写真 32 : 23-03 次 29 トレ土層



## 23-05 次 北泉遺跡

### 調査位置と調査経緯

北泉遺跡は、水口町北泉に位置する奈良時代の集落遺跡である。遺跡は野洲川が形成した河岸段丘上に位置し、東には北脇遺跡、西には下川原遺跡が存在する。

北泉遺跡では、これまでに 12 件の試掘調査を実施している。試掘調査では、竪穴建物や方形土坑、溝を検出したほか、須恵器や土師器が出土している。遺構や遺物を確認した調査は、この 2 件のみである。これら以外の調査では遺構・遺物ともに確認できなかった。

北泉遺跡のほぼ中央部には、5 世紀中葉後半に築造された泉塚越古墳が存在する。泉塚越古墳では、平成 13 年度に滋賀県教育委員会によって、国道 1 号拡幅工事に伴う発掘調査が実施されており、その調査で奈良時代中頃の竪穴建物が確認されている。この調査で検出された竪穴建物は、06-21 次や 10-17 次で検出した遺構と関連すると考えられる。

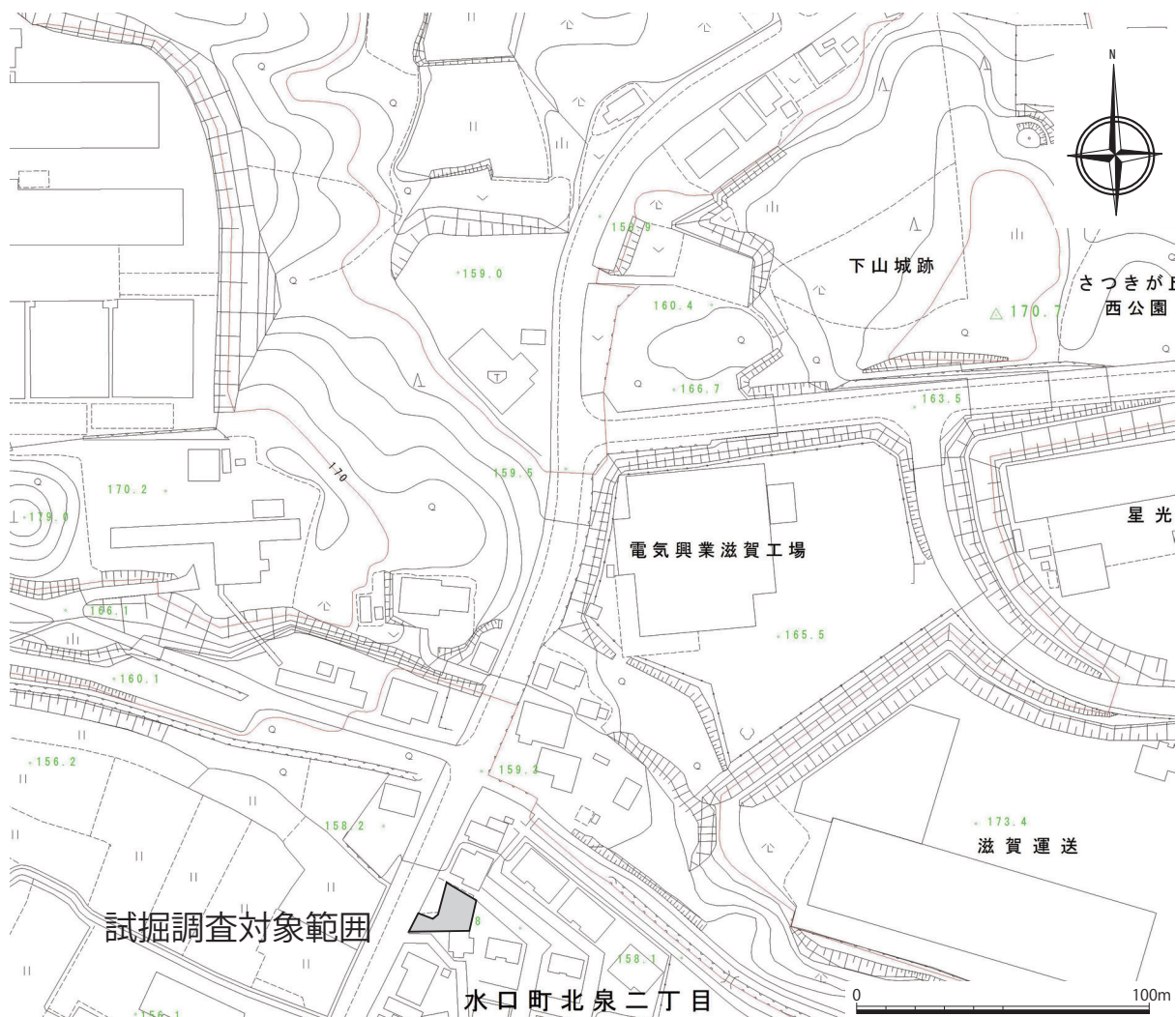


図 14：23-05 次 調査対象範囲位置図

## 調査概要

調査区は2×2mを1箇所設定し、面積は4㎡となった。基本層序は、①耕作土、②黄褐色粘質土、③砂混じり黄褐色粘質土で、地表面から約20cm下で②層を確認した。調査の結果、遺構遺物ともに確認できなかった。

## まとめ

今回の調査では、北泉遺跡に関する新たな遺構や遺物を確認できなかった。今回の調査地が遺跡の西端部であり、また、当該地は土地区画整理を実施済みの範囲である。

## 《参考文献》

甲賀市史編さん委員会 2013『甲賀市史』第5巻 道・町・村の江戸時代

甲賀市教育委員会 2022『令和3年度市内遺跡発掘調査報告書』



図 15：23-05 次 トレンチ位置図・土層断面図



写真 33：23-05 次 トレンチ全景



写真 34：23-05 次 トレンチ土層

報告書抄録

書名	令和6年度 市内遺跡発掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	甲賀市文化財報告書							
シリーズ番号	第43集							
編著者名	伊藤 航貴							
編集機関	甲賀市教育委員会							
所在地	滋賀県甲賀市水口町水口6053番地							
発行年月日	令和7年(2025年)3月21日							
所収遺跡	所在地	コード		世界測地系		調査面積 (㎡)	調査期間	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
きたわきいせき 北脇遺跡	みなくちちょうわき 水口町北脇	25209	363-033	34° 58′ 53″	136° 09′ 10″	42	2023/5/26	店舗
みなくちじょういせき 水口城遺跡	みなくちちょうなかやしき 水口町中邸	25209	363-133	34° 58′ 11″	136° 09′ 41″	6	2023/8/8	個人住宅
にしうらいせき 西浦遺跡	みなくちちょうむしょうの 水口町虫生野	25209	363-140	34° 56′ 55″	136° 09′ 28″	238	2023/8/8～10 8/23,24 11/13～16	土地区画整理事業
みなくちじょういせき 水口城遺跡	みなくちちょうほんまる 水口町本丸	25209	363-133	34° 58′ 16″	136° 09′ 54″	6	2023/8/28	個人住宅
きたいずみいせき 北泉遺跡	みなくちちょうきたいずみ 水口町北泉	25209	363-104	34° 59′ 11″	136° 08′ 13″	4	2023/10/18	個人住宅
みなくちじょういせき 水口城遺跡	みなくちちょうほんまる 水口町本丸	25209	363-133	34° 58′ 17″	136° 09′ 48″	12	2024/3/18	宅地造成
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
北脇遺跡	集落	平安						
水口城遺跡	城館	近世						
西浦遺跡	集落	中世		柱穴		瓦器、土師器 青磁、信楽焼		
北泉遺跡	集落	古代						



甲賀市文化財報告書第 43 集  
令和 6 年度 市内遺跡発掘調査報告書

印刷・発行 令和 7 年 3 月 2 1 日  
編集・発行 甲賀市教育委員会  
滋賀県甲賀市水口町水口 6 0 5 3 番地  
TEL 0 7 4 8 - 6 9 - 2 2 5 0  
FAX 0 7 4 8 - 6 9 - 2 2 9 3  
印 刷 株式会社トップ